

RDM40

[基本事項]

ミキサーのON / OFFを行う前に、スピーカー、アンプなどの電源を切っておくことをお勧めします。ミキサーの電源を入れたり切ったりすると、回路に電流 / サージが流れ、「プツ」というポップ音が発生します。

直射日光や、電源、アンプ、ヒーターなどの熱を発生する機器から離れた場所に設置してください。操作や保管の際には、過度の汚れ、ほこり、熱、振動から保護してください。タバコの灰、飲み物、煙、特に喫煙の煙がかからないようにしてください。共振や振動のある場所に電源ユニットを設置しないでください。

[セットアップ]

RDM40をセットアップする最良の方法は、マスターとフェーダーのポットをユニティーゲインに設定することです。各チャンネルのフェーダーポットのユニティーゲインは7（黒線がやや太くなっている箇所）になります。

最初にターンテーブルまたはCDを再生し、フェーダーポットを「7」に合わせます。その後、VUメーターが0dBのピークに達するまで「GAIN」ポットを回します。その後、「HOUSE」と書かれたマスターボリュームをお部屋に最適な音量レベルに合わせます。VUメーターの真ん中にあるトグルを切り替えることで、各チャンネル出力、またはヘッドホン出力に反応するように切り替えることが出来ます。「VU PGM」は各チャンネル出力から出る音に反応します。「VU PFL」はヘッドホン出力（PFLボタンを押したチャンネルの音）に反応します。

ソースレベルに応じて、フェーダーポットを上げ下げして、マスターメーターの出力が0dBのピークを維持します。これは、ミキサーを使用して最高の音質を実現し、ミキサーの正しいレベルを維持するための正しい方法です。フェーダーポットを「7」に設定することで、各チャンネルに十分なヘッドルームを確保することができます。トラックのマスタリングは制作された時代によって変化しますし、異なるフォーマット（レコードやデジタルファイル）でも変化するため、DJにとって十分なヘッドルームを確保することは非常に重要です。

フェーダーポットをフルポジションにしてしまうと、マスター以外にヘッドルームがない状態になってしまい、トラック間に音量差がある場合、ミキシングが少し難しくなります。全体的なボリュームレベルを得るためには、必ず「HOUSE」と書かれたマスターボリュームを使用してください。これにより、ターンテーブル間のミキシングを行う際の柔軟性が高まります。